

不活性結合の切断を鍵とする 分子リノベーション技術の開拓

丹羽 節 先生

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター
(RIKEN-CLST)

分子標的化学研究チーム 副チームリーダー



日時：2月23日（木） 10:30 より

場所：北海道大学シオノギ創薬イノベーションセンター
1F 産学コミュニティホール（札幌市北区北21条西11丁目）

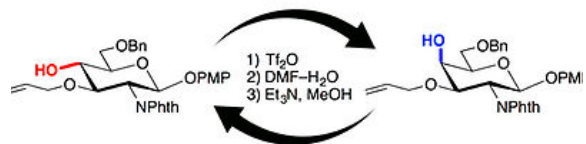
PET（陽電子放射断層撮像）は、ヒトの体内でも分子を追跡できる、有用な分子イメージング技術です。PETにはフッ素 18 のような、寿命の短い核種を導入した PET プロブが必要であり、そのための標識反応の開発が進んでいます。丹羽先生は、ご専門である金属触媒開発を武器に、簡便かつ迅速に PET プロブを合成する手法を開発されました。また最近では、創薬や生命科学、材料化学分野において活用が期待される各種の有機合成手法を開発されています。本講演では PET の基礎と最新の研究、ならびに先生の最近のご研究について紹介していただきます。

【参考文献】

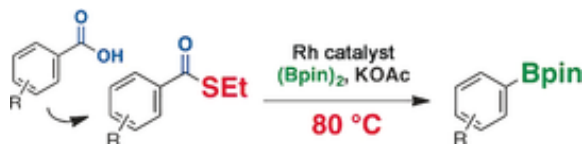
1. *J. Am. Chem. Soc.* **2015**, *137*, 14313.



2. *Org. Lett.* **2016**, *18*, 5982.



3. *Angew. Chem. Int. Ed.* **2017**, in press.



連絡先：北海道大学先端生命科学研究院

門出健次・谷口透（内線 9048）

共催：高分子学会北海道支部

協賛：日本化学会北海道支部